

# 学校法人盛岡大学附属松園幼稚園

## 平成22年度自己評価

### 1、本園の教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心豊かな子どもを育てる。

- ・心も体も健やかな明るい子ども
- ・豊かに感じのびのびと表現する子ども
- ・意欲を持って活動に取り組む子ども

上記の3本柱を基に人を愛する気持ち、命を大切にする気持ち、豊かな心で社会に奉仕する気持ちを大切に育てる。

### 2、重点的に取り組む目標・計画

平成22年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育目標と教育要領の関連性を意識した教育課程の見直しと編纂</li><li>・建学の精神に基づいた保育実践の具現化に向けての教職員の意識を高めてく</li><li>・今日的課題に向けての教職員の共通理解と対応の検討</li></ul>
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育課程の「ねらい」と「内容」について教育要領と幼児の発達の過程とを具体的に関連させ編纂していく。</li><li>・幼稚園の実態に即した安全対策、危機管理マニュアルの作成 (災害時、不審者、事故)</li></ul> ※安全教育、研修、訓練

### 3、評価項目の達成及び取り組みの状況

昨年度の自己評価と今年度を比較検討した結果、各項目の中で改善された項目と引き続き検討する課題が明確となった。この2点に視点を基に取り組み状況を見ていく。

評価項目	取り組み状況
保育の計画性	《改善された事項》 <ul style="list-style-type: none"><li>・建学の精神、教育目標等幼稚園教育全体を意識し、幼児の実態に基づいた教育課程の編纂を行ってきた。特に建学の精神については、専門書をよく読み、生活、行事の中で意識して保育をしてきた。教育課程の中でも具体的な内容があることでより意識して保育に臨めた。</li><li>・教育課程の編纂3年目であったこともあり、これまでの資料を基に幼児の実態を踏まえ、編成していくことができた。実際に教職員が熟考したこともあり、教育課程が指導計画にも反映されていた。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の構成では意識的に清掃を行った。幼児の実態を見ながら環境構成を配慮をしていった。職員間で話し合い遊具、用具の週一回の点検等の安全対策を行った。</li> <li>・互いの遊びの情報が伝わりやすくなるように、職員会議の中で各学年の保育の様子を情報交換することで異年齢交流が自然な形で持たれた。</li> </ul> <p>《検討課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価反省については、園内研修、職員会議のなかでも一人一人の幼児の姿から教師のかかわりについて話し合いの場を持ったが、昨年度は研究発表等が重なり公開保育を実施できなかった。具体的な保育の場面を通しての研修が必要と考える。</li> </ul>
<p>保育のあり方 幼児への対応</p>	<p>《改善された事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の安全点検をした後や危険なことがあった時にすぐに、各年齢ごとに子ども達に話をし、また遊具の使い方等について話し合いの場を持った。自分たちのこととして子ども達自身が気を付けて生活していく姿につながった。また、子ども達の動きに危険を感じた時に、教職員同士が声を掛け合い安全に留意していった。</li> <li>・教育課程の話し合いがあったことで、幼児の行動からの読み取りや次の行動の推察が可能となった。そのことにより幼児の発達の道筋を捉え、教師が見通しを持ちかかわることが可能となってきている。今の幼児の実態の捉えだけではないその中にある今後の課題に目を向けての保育を意識できるようになった。</li> </ul> <p>《検討課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、天災、事故、火災等緊急時について以下のように対応した。        猛暑における幼児の体調管理（水分補給・休息の取り方）        豪雪における路面の除雪及び積雪にかかわる危険への配慮        火災、地震避難訓練の実施        東北地方太平洋沖地震の際の避難誘導、安全の確保</li> </ul> <p>以上のことについて今後も十分に配慮し対応していく必要があると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する幼児や保育の中で一対一でのかかわりが必要な時に、周囲の子に目を配る事といった意識が薄かった。</li> </ul>
<p>教師としての資質や能力、 良識、適正</p>	<p>《改善された事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日には来週の打ち合わせ、日々の職員会議では明日の保育のことについて時間を決め行ってきた。限られた時間の中で話し合う内容もあらかじめ決めて行うことができた。</li> <li>・行事が終わった後は、すぐに元の場所にしまうなど、整理整頓に努めた。</li> </ul> <p>《検討課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員それぞれが意欲的に研修に参加し学んだことが保育に反映されるように努力していく。</li> <li>・仕事（園務）の能率については園務分掌を明確にし、各自が自分の業務を行うための時間の確保を意識して行っていく。</li> </ul>

<p>保護者の対応</p>	<p>《改善された事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師側から働きかけ、子どもの育ちについて話し合う時間を持つ、気になった子どもの様子はその日のうちに、電話連絡する等子育て相談の機会を様々な形で行っていた。信頼関係を持つうえでも、重要なことと思われる。</li> </ul> <p>《検討課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との日々のコミュニケーションは大切にしながらも、時間の取り方等の配慮が必要と思われる。</li> </ul>
<p>地域の自然や 社会とのかかわり</p>	<p>《改善された項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や公共施設等について把握し、地域の自然を周知し生かしながら園外保育を計画していった。</li> </ul> <p>《検討課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期指導計画の中に、園外保育が位置づけられていなかった。そのため活動で期待できるねらい、経験できる内容が教師の中であいまいになっていた。具体的に計画の中に組み入れることでより意味のある活動になっていくことが期待される。</li> <li>・小学校の教育活動には関心があるものの、小学校の学習指導要領や実際の公開授業に触れる機会がなかった。幼小の接続から考えると、小学校教育についてより積極的に学ぶことが大切であると考えられる。</li> </ul>
<p>研修と研究についての対応</p>	<p>《改善された事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修では自己課題を持ち、意見を出し活発な話し合いの場が持たれるようになった。</li> </ul> <p>《検討課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会といった園外の教員が集まる場においては自分の考えがあっても発言出来ていないと感じている。自分の保育を振り返り、感覚的なものを言語化していくことが必要と思われる。</li> <li>・日々の保育について、テーマ性を持っての話し合いの場が必要と思われる。</li> <li>・新しい幼児教育の情報を意識して捉えていく必要があると考えている。表面的なこととは分かっているでもその内容の理解に努めていく。</li> </ul>

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・昨年度の自己評価から、検討事項になった項目について教職員間で話し合いを持ち、取り組み状況を話し合うことによって改善事項と検討課題が明確となった。このことから、今後検討課題をどう改善しより良い保育を目指すのか、具体的にどういったことが必要なのかを話し合っていく必要がある。
- ・園の建学の精神や教育方針を意識し、また子どもの実態に即して教育課程を編纂していった。しかし教育要領との具体的な関連性についての話し合いがより必要と考える。
- ・昨年度保護者アンケートを実施し、園側と保護者側の意識について探った。同一見解のものが多かったが、(改善面も含めて)子育て相談に対するとらえ方に温度差があった。そのことから教師側から話やすい雰囲気作りや働きかけを行うといった具体的な手立てがとれた。
- ・業務の効率化を視野に入れた取り組みが必要である。その為にも園内における時間の使い方を有効にしていくことも大切であるとする。園務分掌を個々が意識し、また先の見通しを持った仕事の組み立てが必要であると考えた。

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	
教育内容の充実 教育課程	教育要領のねらい、内容を指導計画や教育課程に関連付けてみていく。専門図書をよく読み理解していくことが必要である。幼稚園としてねらいを各学年でどう捉えていくか等教育課程を見直していくうえで必ず行う。また、月ごとの区切りとしているが幼児の実態を照らし合わせ育ちの変わり目がどこにあるのかも見ていく。
園児募集	幼稚園周辺から園児が確実に減少している。幼稚園の教育活動を広報する媒体としてのブログ、まつぞのようちえん新聞を出す。(年一回だけなので、内容と発行回数について検討する) ・屋外掲示板の活用を通して園内の教育内容を地域に発信していく。
教員養成のための実習協力園としての役割	実習園として、学生に幼稚園教育の理解がより深まるように、子ども理解や実践的スキル等、具体的な場面を通して伝えていく。
組織運営（園務分掌の実施）	・園務分掌の遂行が滞りなくできるように、見通しを持ち、業務を行う。業務内容によっては、担当者が先立ちとなり教職員に声をかけ共にすすめていくようにする。
安全対策	幼稚園における危機管理対策を話し合い、緊急時に対応できるためのマニュアルの作成と教職員の常に具体的な動きがとれるような体制が必要とされる。

#### 6 財務状況

公認会計士の監査により適正に運営されていると認められている。